

白藍塾オリジナル

2024年度 入試小論文分析 & 解答のヒント

2024年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・総合政策学部

「複数の資料を分析・活用しつつ、現代社会の問題とその解決策について具体的に論じる」という出題内容自体は、例年通り。今年度は、日本経済の活性化がテーマとなっている。資料として選ばれているのも国際機関の報告や研究者の分析などで、その点では従来の傾向に戻ったといえる。

問1も問2も複数の作業が求められていて、かなりややこしい。問1では、①5つの資料の中から4つ選び、各資料の主題について言及した上で、②「その主題に関連づけて、今から10年後の日本について、米国と中国との相対的な関係を展望しつつ、どうなっているかを予想する」ことが求められている。

書き方はいくつ考えられるが、複雑に考えないで、まず4つの資料の主題を羅列的にまとめた上で、段落を改めて②に答える形にするほうがよいだろう。各資料の主題については、設問文の中でもそれぞれ何についての資料かが簡単に説明されているので、それを参考に読み取れるはずだ。

②の「その主題に関連づけて」という箇所が今ひとつわかりにくいのが、4つの資料の主題にまんべんなく触れるほうが無難だと思われる。とすると、4部構成で書くのは難しいので、2部構成のA型で書くべきだろう。最初に「10年後の日本はこうなっている」という予想を簡潔に示した上で、第2部で各資料の主題に触れながら予想の内容を具体的に説明していく。そのためにも、最初にどのような予想を書くかイメージした上で、資料も選ぶほうがよい。書きやすいのは、やはりデジタル化の進展と経済の関係に焦点を絞ることだろう。

「米国と中国との相対的な関係」については、米国と中国が経済大国・デジタル先進国として激しく対立しているという国際社会の現状を踏まえて、「日本は両国とどう距離を取るべきか」に軽く触れる程度で十分。

問2は、「日本経済の活性化に必要なイノベーションを生み出す」ための政策を考えるという問題だ。

最初に3つの政策を挙げ、その目的・対象・手法を簡潔に説明することが求められている。ここはあまり時間をかけず、箇条書きで最低限のことを書けばよい。

次に、1つ選んで、①なぜそう考えたか、②その政策によってどんな効果が期待されるかを説明し、さらに③副作用や弊害にも言及しつつ、その政策が有効であることを説明することが求められる。

ている。

①の意図がやや曖昧だが、「この問題を解決するにはこの政策が必要」といったことを簡単に書くといいたいだろう。そして、それにどんな効果があるか(②)を簡潔に示す。ここまでで一段落とする。

③については、4部構成の第2部以下と同じように、「確かに、こういう副作用や弊害もある。しかし、～」とした上で、第3部に当たる部分でその政策の有効性を具体的に説明する。このようにすれば、対策問題の書き方を応用して全体をうまくまとめることができるはずだ。

政策の内容は、やはり問1の答えを踏まえて考えるべきだろう。例えば、問1で「デジタル化が進む(または、なかなか進まない)」と予想する場合は、デジタル化を進めて経済に生かす(または、その遅れを取り戻す)ための政策を考える、などだ。そのことを踏まえても、問1と問2は別々に考えるのではなく、両方合わせての方向性を最初に考えておくことが重要だろう。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室(03-3369-1179) <https://hakuranjuku.co.jp>